

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	フードパントリー等支援事業
事業名(副) ※任意	農産物食品ロス削減

入力数 主 13 字 副 9 字

実行団体名	特定非営利活動法人セカンドハーベスト京都
資金分配団体名	一般社団法人全国フードバンク推進協議会

**優先的に解決すべき社会の諸課題**

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0 字

**SDGsとの関連**

ゴール
_2.飢餓をゼロに
_12.つくる責任つかう責任

実施時期	2021年6月 ~ 2022年2月	事業 対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> (京都府・大阪府)	事業対象者： (事業で直接介 入する対象者 と、その他最終 受益者を含む)	・生活困窮状況にある方々（特にひとり親、学生など）	事業 対象者人 数	2000人
------	-------------------	------------	---	---	---------------------------	-----------------	-------

**I.団体の社会的役割**

<b>(1)申請団体の目的</b>
安全に食べられるにも関わらずそのままでは廃棄されていたような食品をレスキューし、支援を必要とする人々を支える団体等に提供する活動を通して、食品ロス削減とフードセーフティネットを両立させる社会インフラの一つとなることを目指すとともに、地域社会における食を通じたコミュニティを支え、もって福祉及び社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。
<b>(2)申請団体の概要・事業内容等</b>
<p>【概要】</p> <p>2015年12月 フードバンク活動を始める</p> <p>2016年9月 京都「子ども食堂」シンポジウムを実施</p> <p>2016年12月 特定非営利活動法人の認証を受ける</p> <p>2017年1月 法人設立記念 京都フードバンクシンポジウムを実施</p> <p>2018年7月12日 第1回子ども支援プロジェクト実施</p> <p>2018年10月 京都大学国際シンポジウム食と持続可能性 KYOTOフードバンク分科会実施</p> <p>2019年7月12日 第2回子ども支援プロジェクト実施</p> <p>2020年3月4日 休校措置に対応し緊急子ども支援プロジェクトを実施</p> <p>2020年8月12日2021年3月 第3回子ども支援プロジェクト実施</p> <p>2020年2月 第1回フードパントリー実施</p> <p>2020年3月 第2回フードパントリー実施</p> <p>【事業内容】</p> <p>1. フードバンク事業：寄贈を受けた食品を福祉施設などに配送</p> <p>2. 子ども支援プロジェクト：長期休暇中の就学援助受給世帯に食品を届ける</p> <p>3. 食のセーフティネット：福祉事務所や社会福祉協議会などの要請で生活困窮者のために食品を届ける</p> <p>4. 食品ロス削減のための出前授業：小学校などへ出かけていき食品ロス削減のための授業を実施</p> <p>5. フードパントリー：新型コロナウイルスの影響で生活困窮状況になってしまった方々に直接食品をお渡しする</p>

入力数 (1) 172 字 (2) 551 字

**II.事業の背景・社会課題**

<b>新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題</b>
<p>コロナ禍において低所得の世帯で悪い影響を受けている方々ほどダメージが大きく、京都は学生の街と言われているが、その学生もアルバイトのシフトが削られたり、アルバイト先自体が廃業したりで所得だけでなく、ご飯も賄いを食べていたらなくなってしまったとアンケートで声が寄せられて言います。多くの学生が生活費をアルバイトで賄っていて、そのアルバイトが思うに任せない状況になってしまい、学校を辞めなくてはならない・・・という状況に追い込まれていたりする。</p> <p>昨年特に、休校措置になったときは給食がなくなり、子どもを預けるところがなくなり、特にひとり親が働きに出られないという事例も少なくない数報告を受けています</p>

入力数 295 字

### III.事業内容

<b>(1)事業の概要</b>
国内の食品ロス量は612万トンと言われているが、規格外の野菜などは食品ロス量に算入されておらず、国内の食品ロス量の実態は更に多いという指摘があります。一方で新型コロナウイルスの影響で経済的に困窮している方々が増加し就中、ひとり親や一人暮らしの学生など経済基盤の弱い世帯ほどダメージは大きくでているという状況があるため下記の活動を行います。 1. フードパントリーの実施及びフードパントリー運営団体等への支援 2. 規格外農産物を定期集荷するシステム作り、これらの取り組みによりコロナ禍における生活困窮者支援と食品ロス削減を目指します

入力数 265 字

<b>(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態</b>
今後も格差拡大によって増加していくと考えられるフードパントリーに対して食品支援が滞らせることなく、支援を継続させていき、取扱量自体を増加させていきたい。本事業を継続させていくために人員を継続的に雇用していく体制を作っていきたい。

入力数 114 字

	前年度（2020年4月～2021年3月末）実績		今回の事業実施期間を通じた目標値	
(3) 食品寄贈受け入れ重量（トン）	21.4	トン	22.5	トン
(4) 困窮世帯への食料支援件数（延べ数）	1473	件 (延べ数)	1900	件 (延べ数)
(5) 困窮世帯への食料支援に使用する食品の重量（トン）	14.7	トン	19	トン
(6) 自治体福祉課・社会福祉協議会等、連携する相談機関・窓口の数	25		30	
(7) こども食堂やパントリー等、食品提供先として連携する福祉施設・支援団体の数（自治体福祉課・社会福祉協議会を除く）	71		80	
(8) 食品寄贈元企業の数	47		39	

(9)上記（3）～（8）の「事業実施期間を通じた目標値」を達成するために実行団体が行う具体的な活動	時期
(3)（8）：①京都大学を中心として結成された「京都超SDGsコンソーシアム」を通じて協力企業を募っていく	通年
②京都府内の農家、企業、JAなどに協力要請文を送付する	通年
③フードドライブ協力企業を募っていく	通年
④WEB広告を実施し府民に広報していく	通年
⑤農産物集荷システムを構築する	通年
(4)（5）（6）：①パートナーシップを結べていない社会福祉協議会に「食のセーフティーネット」の案内を送付	6月
②こども支援プロジェクトの実施対象学区を各市教委の協力で広げていく	6月
(7)：自然増	通年

### IV.事業実施体制

<b>(1)メンバー構成と各メンバーの役割</b>	理事長：事業全体の統括 理事会：理事長のサポート 事務局員：上記（3）～（8）の連絡、調整、アプローチ、事務管理全般、集配オペレーション フードバンクボランティア：集荷配送
<b>(2)他団体との連携体制</b>	京都府農林水産部（広報）、京都市環境政策局（広報、フードドライブ支援）、京都市ごみ減量推進会議（広報、フードドライブ支援）、京都超SDGsコンソーシアム（協力企業探し）、一般社団法人マスタードシードクリスチャン教会 京都（フードパントリー実施）、京都藤城こども食堂（フードパントリー実施）、相楽連合むつみ会（フードパントリー実施）、ボランティア団体「ぬくもりの絆」（フードパントリー実施）、公益社団法人 京都保健会（フードパントリー実施）、京橋フードパントリー（フードパントリー実施）
<b>(3)想定されるリスクと管理体制</b>	1. フードパントリーでの感染：運営実施団体に感染防止対策を徹底してもらえよう、提案をおこなっていく（事務局対応） 2. 集配時の交通事故：ボランティアドライバーに交通事故防止のため運行管理を徹底しておこなっていく（運行管理は運行管理責任者の理事長のもとで事務局が担当）

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無			
コロナウイルス感染症に係る事業			
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）	
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績			
<p>あらたな取り組みのため実績はありませんが、こども支援プロジェクトで協力頂いている立命館大学 産業社会学部 現代社会学科 石田賀奈子准教授にアンケート調査の作成、集計、分析を依頼する予定です</p>			